

# 世界の人事は こうなっている

リクルートワークス研究所 グローバルセンター長 村田弘美



第12回  
(最終回)

## 「副業」に必要なスキルとは？ (日本)

飛行機のなかで次のテーマ決めを楽しんでいた連載も、これで最終回となりました。読んでくださった皆さま、ありがとうございます。

今回は「副業」がテーマです。以前、オランダのKLM本社に取材でうかがった際、従業員の方が「自分も語学力を活かしてガイドをしています」、「副業は普通のことです」と話していたことが、鮮明に記憶に残っています。

社会人を対象にした「全国就業実態パネル調査」によると、日本の副業率は13.1%。10人に1人以上が副業経験者で、うち72.6%は本業とは異なる仕事に就いています。弊社はずっと以前から副業が認められていて、私も昨日、副業申請をしたところでした。

私の初めての副業は、大学でキャリア論を教える仕事でした。1年契約の非常勤講師でしたが、郊外のため通勤時間が長く、講義の準備、講義、指導、課題や試験の作成、採点、進路やインターンシップの相談と、たかが1コマ、されど1コマ。週30枚のテキストの作成など半日がかりの仕事で、ほぼ赤字でした。

もちろんメリットもあります。1つは基本の見直し。後輩や部下への指導とは異なりますので、キャリア理論の基礎から、論理的かつわかりやすく教えなくてはなりません。これは、自分自身の再勉強につながりました。課題としたのは複数の大学のキャリアセンター見学とその比較レポート提出などでしたが、学生ならではのサービスの視点に驚かされましたし、毎週約100名の学生と会話するのは非常に有意義な時間でした。

さて、副業に必要なスキルは何か。まず、テクニカルスキルや時間管理術、マルチタスクであることは必要要件です。これは本業で行っている複数のプロジェクトマネジメントのスキルの延長なので、さほど難しくはありませんでした。より重要と感じたのは、異なる職場環境の違い（たとえば通勤や職場のルールや人間関係、コミュニティなどの違い）を把握して対応することができる柔軟性やストレス耐性の強さ、対人コミュニケーションスキルです。

私は現在、本業でも2つの部署を「兼務」しているのですが、副業の経験はここでも役立っていま

す。

英国や米国では、副業する人を「マルチプルジョブホルダー」、「セカンドジョブ」、「サイド・ハッスル」などと呼称します。夜間に復業する人は「ムーンライター」とも呼ばれます。最近では、インターネットを通じたクラウドソーシングで、いつでもどこでも、世界中の仕事をすることができます。本業とリモートでの副業も容易で、UBERのように空き時間にタクシーの運転手をするなど、クラウドのシステム上で気軽に始められる副業が増加しています。

英レディング大学の調査では、副業経験者の73%が、副業を始めた理由を「新たな挑戦を模索するため」と答えており、また69%がそれによって「人生がより興味深くなる」と回答しています。副業の目的は、生計の維持から充実した人生を送るための手段へと展開してきています。

日本企業の副業容認は25.2%（弊社調査）と約4分の1ですが、副業の経験は自社にとって、良い影響を与えるものか否か、人材育成の手段の1つとしての副業を問う時期に来ています。